

平成 28 年度上期 林野公共事業の事業評価(完了後の評価)に係る 技術検討会 議事概要

1 日 時

平成 28 年 7 月 25 日 13:20～15:15

2 会 場

栃木県日光市安川町 2-47 日光総合会館

3 出席者

技術検討会委員 執印康裕委員、葛城奈海委員、立花敏委員、陣川雅樹委員

関東森林管理局 計画保全部長、治山課長、治山課設計指導官
民有林治山係長、森林整備課課長補佐
企画調整課長、監査官、監査係長
日光森林管理署長、日光署総括治山技術官
日光署主任治山技術官

4 議事概要

○完了後の評価について

(委員) 鬼怒川地区の現場を拝見させていただき、大変有意義であった。
下流にある人家等を守るという意味では素晴らしい事業だと思うが、
さらに視野を広げて海のことまで考えると、海岸線の砂浜がどんどん消滅しているのは砂防ダムが増えているせいではないかという意見もある。その辺りは森林管理局としてはどのように捉えているのか。

(関東局) 治山ダムの役割は、溪床勾配を緩和し、上流域において不安定土砂が発生・流下した場合に、下流側に「安全に流す」ということである。
防災事業の場合は、下流域の安全を図るため、土砂の流出を抑えなければならぬが、そのために砂浜が消失しているのではないかという意見があることも承知している。
このため、当局管内では、海岸事業等と連携しながら砂浜を復元する事業も推進しているところである。

(委員) 便益集計表を見ると、主となる項目がこれで十分なのかという疑問が沸く。例えば、緑化木が大きくなっていれば炭素を固定していると考えられるため、そのような便益も見込めば、もう少し B/C の割合も変わってくるのではないか。

(関東局) 便益には多くの種類があり、炭素固定便益も計上することができるが、本評価においては、災害を防止する便益を主たる便益として評価している。

(委員) 足尾地区の事業について今後はどうなるのか。

(関東局) 足尾地区は全国的にも有名な荒廃地であり、現在も奥地が崩れて土砂の流出があり、復旧事業を実施している。今回の事業計画は完了したが、引き続き、奥地等の復旧を進めていくこととしている。
また、砂防事業と連携して復旧治山事業を行うとともに、ボランティアの活動を通して、みんなで協力して足尾を緑にしようという取組も併せて進めている。

(委員) 評価個表③の“事業により整備された施設の管理状況”に「定期的に点検を行い…」とあるが、具体的にはどういうことか。

(関東局) 大雨が降った後や地震の後に施設が被災していないか点検を行っている。

(委員) 実際に行っていることを書き加えて具体的にした方がよいと思う。

- (委員) 治山事業を地区単位で評価しているのに対し、森林環境保全整備事業は森林計画区単位で評価しているため、具体の効果がわかりづらい。例えば森林道を1路線開設したら、これだけの効果が出るというように、評価単位を細分化したらどうか。
- (関東局) 森林計画区単位で評価すると、範囲が広いため、評価の内容がぼやけてしまう面もあるが、逆に細分化した場合、全体が見えず、わかりづらくなる面もあると思う。
試行錯誤の結果、森林計画区単位で評価するようになったと思慮。
- (委員) 例えば、木材生産がこれだけ増えました、というような実績についても、具体的な数値を評価書に記載できたらよいと思う。「安定的」とか「増えている」ということを、別のかたちで表現できればよいと思う。
- (委員) 評価個表の性質として難しいかもしれないが、例えば、5年間に何立方木材を出しました、という数字があった方が、感覚としてわかりやすいと思う。
- (関東局) 了解した。検討したい。
- (委員) 評価個表⑥の今後の課題のところ、地元の意見を受けて、今後、国有林野事業としてこんな事業を行っていく、ということは記載できないか。
- (委員) 特に利根上流森林計画区については、民国連携や獣害対策についての記載が弱い感じがする。
地元の意見を踏まえながら、これからこのようなことをやります、というように、今後の課題と地元の意見の関係がもう少し明確になった方がよいと思う。
- (関東局) 了解した。
本日いただいたご意見を踏まえて評価書を修正し、今後の事業に反映させていきたい。